

群馬県草津町・本白根山噴火から8年

2018年1月23日10時2分頃、本白根山の鏡池の北側の白根火山ロープウェイ山頂駅の南側で噴火が発生しました。この噴火で草津国際スキー場に多数の噴石が落下し、スキー場で訓練中だった自衛隊員のうち1人が部下を守り、噴石にあたり殉職されました。

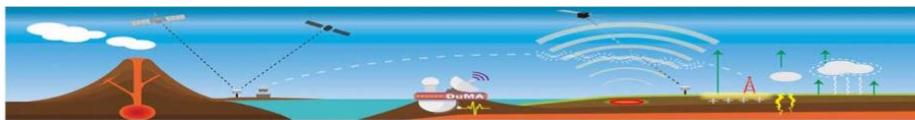
本白根山では噴火3分前の9時59分から火山性微動が発生し、10時0分頃から約2分間の隆起とその後の沈降が傾斜計で観測されました。しかしそれ以前には火山性微動や地震といった火山活動を示すデータは観測されておらず、前兆のない突然の噴火でした。

歴史的には本白根山では約3000年前に溶岩流を伴う噴火があった事が確認されていましたが、それ以降は顕著な活動は確認されておらず、気象庁の監視カメラも白根山の湯釜付近を中心に設置されており、当該地域付近には監視カメラは存在しなかったのです。

昨年12月、東京科学大草津白根火山観測所(群馬県草津町)と群馬大共同教育学部の合同研究チームは、2018年の噴火以前の活動記録がないとされていた本白根山について、直近では約200年前の江戸時代後期に噴火していた可能性があるという発表を行いました。江戸～昭和期に旅の土産として広く流通していた「鳥瞰図」で、噴煙が立ち上る本白根山の姿が描かれていたのです。研究チームは「従来の認識よりも本白根山の活動度が高い可能性がある。安全安心な利活用を考える上で重要な資料だ」とコメントしています。



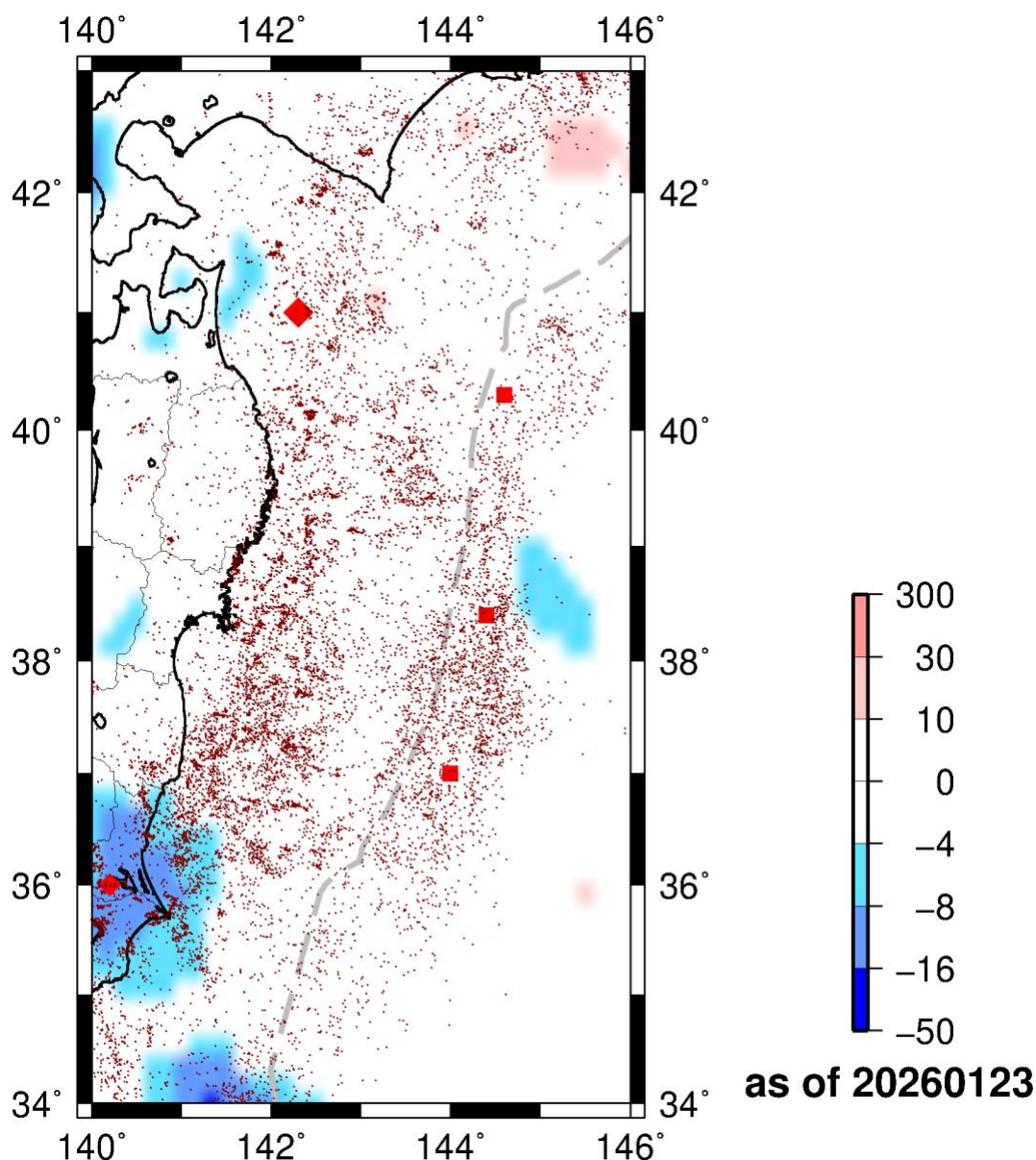
群馬県立図書館・デジタルライブラリー「上州草津温泉之図」の上半分
中央の本白根山からも噴煙が立ち昇っているのが確認できる



東北地方海域の地下天気図®

今週は1月23日時点の東北地方海域のLタイプ地下天気図をお示しします。青森県沖・北海道南東沖の日本海溝付近の地震活動静穏化は、昨年12月8日に発生したマグニチュード7.5の地震(図中の青森沖の◆が12月8日に発生した地震の震央)により解消しています。

関東地方の地震活動静穏化領域(青い領域)はかなり確度の高い異常と考えています。陸域では茨城県およびその周辺、それと房総沖を含む地域でM7クラス地震発生の可能性が高くなっているというのが一つの解釈です。



今週号では、茨城県・霞ヶ浦周辺の地下天気図時間変化のグラフをお示しします。昨年10月ぐらいから地震活動静穏化が開始し、現在も進行中である事がわかります。

